

# 北京京劇院紹介

首都北京を代表する北京京劇院は、老舗劇団として伝統を継承すると同時に、新しい試みにも果敢に挑戦し続けています。

## ぶしょうだてん 武松打店

『水滸伝』より。トラ退治で有名な武松は、人殺しの罪で流刑になる途上、宿屋に泊まる。その宿の女主人・孫二娘は刀やりの扱いがうまく、男もかなわない武芸の持ち主だった。武松と孫二娘はお互いの雰囲気を感じ、深夜に命を狙って戦う。実は、二人とも梁山泊に通じた仲間同士だったのだ。

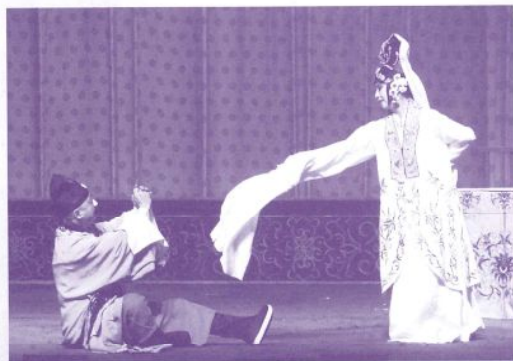
真っ暗闇の室内という設定の中で繰り広げられる男女二人のスリリングな立ち回りが見どころである。



## かつそくさぶろう 活捉三郎

同じく『水滸伝』から劇化した、後に梁山泊の頭となる宋江の役人時代の物語。宋江の愛人・閻惜姣は、夫の仕事の同僚である張文遠(三郎)と密通したが、逆に宋江をゆすろうとして殺されてしまう。未練が残って成仏できない閻惜姣の魂は、三郎の家を訪ねてくる。

この世に戻ってくる女が黄泉路をたどる様子、男をあの世に連れて行こうとする様子が、京劇独特の方法で美しく、おもしろく表現される。

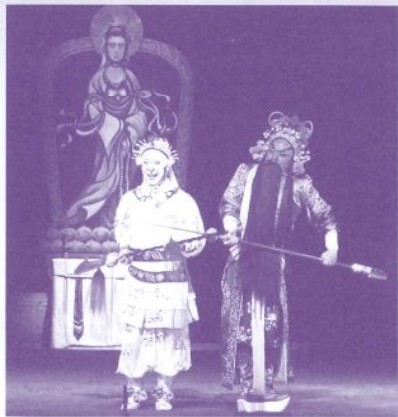


# 三国志外伝～関羽と白猿

たいしゆ 太守(地方を治める王)・ゆうこ 熊虎の息子が旅芸人の娘

を気に入り、役人と手を結んで自分の物にしようとして、娘の父を刑に処して路上に捨てる。そこにたまたま通りかかった関羽は怒り、弱い者いじめをするドラ息子と役人を殺した。熊虎は関羽を追う。山に分け入った関羽は、観音菩薩の取り計らいで白猿に刀の術を教わり、民を救う力を与えられる。

『三国志』で有名な関羽の修行時代、忠義を表わす赤い顔になったエピソードも盛り込まれ、白猿の教えを受けて武人として成長する過程を描く、楽しい舞台。



## さん ちゃ こう 三岔口

人殺しの罪で流される焦贅しやうざいを救おうとひそかに後を追っている任堂恵じんどうけいは、焦贅一行に続いて三岔口さんさろ(三叉路)に一夜の宿を取る。宿の亭主劉利華りゅうりかも、実は焦贅を救おうとしていたのだが、お互いを勘違いした二人は、深夜灯りの消えた室内でたたかうことになる。はりつめた空気の中にユーモアのある、二人の男の息づまる決闘けつどうシーンだ。